

社会資本総合整備計画

環境保全による美しいまちづくり
事後評価

二宮町

平成29年3月14日

社会資本総合整備計画（水の安全・安心基盤整備）事後評価書

平成 29 年 3 月 14 日

計画の名称	環境保全による美しいまちづくり									
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度 (5年間)			交付対象	二宮町					
計画の目標	下水道整備を行ない、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。									
計画の成果目標（定量的指標）	①下水道処理人口普及率を80.1%（H23）から94.2%（H27）に増加させる。 ②下水道による都市浸水対策達成率は0.7%（H23）から1.1%（H27）に増加させる。									
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考
							当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	
①	下水道処理人口普及率 下水道を利用できる人口（人）／総人口（人）						80.1%	88.7%	94.2%	
②	下水道による都市浸水対策達成率 浸水対策完了済み面積（ha）／浸水対策を実施すべき面積（ha）						0.7%	1.0%	1.1%	
全体事業費 (百万円)	合計 (A+B+C)	2,770	A	2,218	B	0	C	552	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	19.9%

事後評価

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
○二宮町下水道運営審議会において実施。	○事業終了後
	公表の方法
	○ホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

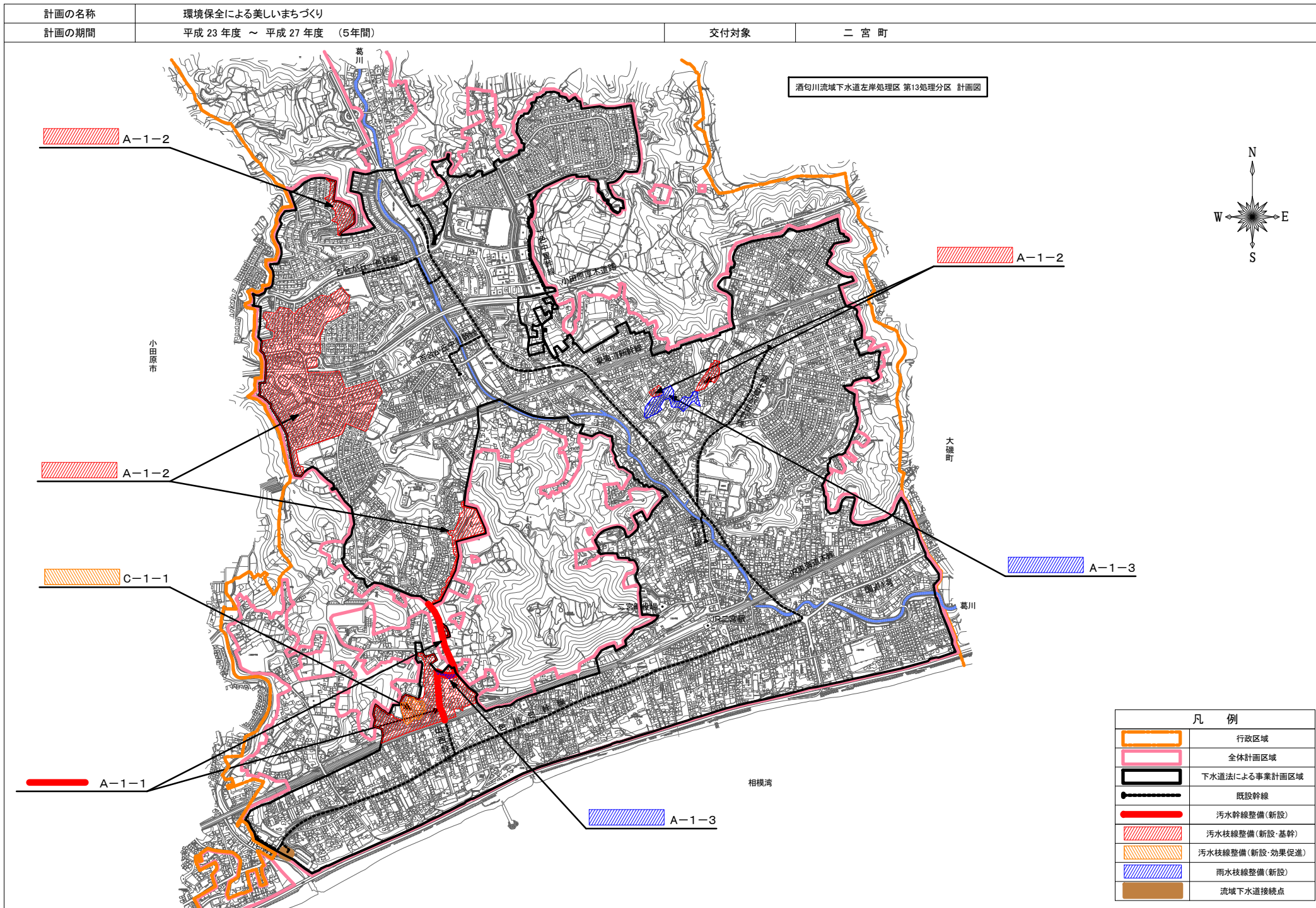
交付対象事業											上段(計画)	下段(実施)					
A1 下水道事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
A-1-1	下水道	一般	二宮町	直接	-	汚水	新設	山西幹線整備	L=705m L=653m	二宮町						360 212	
A-1-2	下水道	一般	二宮町	直接	-	汚水	新設	汚水枝線整備	A=58.3ha A=29.3ha	二宮町						1,593 742	
A-1-3	下水道	一般	二宮町	直接	-	雨水	新設	雨水枝線整備	A=12.6ha A=1.1ha	二宮町						265 129	
合計																2,218 1,083	

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
C-1-1	下水道	一般	二宮町	直接	-	新設	污水枝線整備	A=26.1ha	二宮町						552	
								A=0.1ha							4	
													合計	552		
														4		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	
C-1-1	基幹事業である污水幹線と接続する枝線整備を一体的に行なうことにより効率的な整備を図り、公共下水道の普及促進をもって良好な衛生環境を確保する。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況													
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>①幹線・枝線整備を実施したことにより、生活環境の向上及び公共水域の水質保全を目的とした整備が図ることができた。</p> <p>②当初の整備予定区域を精査し経済的かつ効率的な整備を実施したことにより、浸水対策を図ることができた。 なお、整備後の大雨時にも被害が発生することなく効果を発揮している。</p>											
II 定量的指標の達成状況	指標① 下水道処理人口普及率	最終目標値	94.2%	目標値と実績値 に差が出た要因	<p>・町の財政状況により予定事業を全て実施することが困難になり事業効果の高い区域を優先的に実施したため、目標値と実績値に差が生じた。</p>								
		最終実績値	85.6%										
	指標② 下水道による都市浸水対策達成率	最終目標値	1.1%	目標値と実績値 に差が出た要因		<p>整備予定区域面積を精査し、経済的かつ効率的な区域を優先したため、目標値と実績値に差が生じた。 整備予定区域面積1.43haのうち、1.1haの区域を整備した。</p>							
		最終実績値	1.0%										
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)													

3. 特記事項（今後の方針等）												
○財源が要因による目標未達の状況を踏まえ、今後の事業計画にあたっては、より効率的な整備手法を考慮し区域拡大に努める必要がある。												

(参考様式3) 水の安全・安心基盤整備



凡 例	
	行政区域
	全体計画区域
	下水道法による事業計画区域
	既設幹線
	污水幹線整備(新設)
	污水枝線整備(新設・基幹)
	污水枝線整備(新設・効果促進)
	雨水枝線整備(新設)
	流域下水道接続点